

中欧文学の夕べ

トカルチュク、アイヴアス、山崎佳代子を迎えて

朗読とトーク

二〇一三年三月二日（土）午後四時から六時

東京大学文学部法文二二号館

二階一番大教室（定員二二〇名） 入場無料・予約不要

ゲスト

オルガ・トカルチュク（ポーランド）

紹介：小椋彩、通訳：久山宏一

ミハル・アイヴァス（チェコ）

紹介・通訳：阿部賢一

山崎佳代子（セルビア・日本）

紹介：沼野充義

総合司会

加藤有子

東京世界文学会議前夜祭

日本学術振興会助成による国際研究集会

「グローバル化時代の世界文学と日本文学

—新たなカノンを求めて— サテライト企画



ミハル・アイヴァス



オルガ・トカルチュク



山崎佳代子

三人のスラヴ圏からの作家・詩人が東京で出会う、ミニ・中欧文学フェスティバル。中欧の現代作家たちが何を考え、何を求めているのか。グローバル化の波が押し寄せる世界で中欧の作家たちはどんな役割を果たすことができるのか。そして中欧と日本の間の、地理的に遠くとも、魂は近い文学的關係について。どうして中欧の文学に日本人は心惹かれるのか。ゲストたちがそれぞれ自分の作品を持ち寄って朗読し、日本での紹介者・翻訳者を交えて語りあう。

【共催】：科研費基盤 (B)「グローバル化時代における文化的アイデンティティと新たな世界文学カノンの形成」(研究代表者：沼野充義)／科研費基盤 (B)「東欧文学における「東」のイメージに関する研究」(研究代表者：阿部賢一)／北海道大学スラブ研究センター（平成 24 年度スラブ・ユーラシア地域を中心とした総合的研究「東欧文学における「東」のイメージの形成と変遷：特に「移動の文学」に注目して」)(研究代表者：小椋彩)／東京大学文学部現代文芸論研究室 【後援】：日本スラヴ学研究会